



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛸池中町3-2-1-600

TEL 06-6844-5290～4

FAX 06-6840-8127

平成16年（2004年）1月8日 第5号

## 心にふれる出会いを楽しみに

穏やかな日和のなか、新年の幕が開きました。

豊中市に住み始めた私にとって、自分のための時間を楽しみたいときに散歩に出かける場所の一つに服部緑地公園があります。そんな方は私以外にも多くおられるようで、元日の青空のもと、たくさんの家族や犬との散歩を楽しんでおられる方々をお見かけしました。いつもの散歩風景と違うのは、凧がゆうゆうとあがっていることでお正月らしさを感じることもぐらいでしょうか。

昨年の年明けは、緑地公園を散歩していても、つつい教育研究所から教育センターへの移転を間近に控え、いかにスムーズに移転準備をすればよいのかばかり気になっていました。今年は、木々などに癒されながらのひとときとなりすがすがしい気分になるものでした。なんとなく教育センターでの自分の仕事を振り返りながら、どんなことがよかったのか、今年は何をすべきなのか、と思い巡らしていると、教育センターでの勤務を通じて知り合うこととなった方々の顔が浮かんできました。

まず、浮かんできたのは、教育相談に来ている子どもの担任の先生方でした。教育相談に来ている子どもについて、学校園や保育所等の先生方と教育相談担当者が双方の場面での子どもの状況を交流し、今後の指導や教育相談の参考にしていくために話し合う場合があります。先生の穏やかな表情ややさしい語り口でどのように子どもをとらえ、接しておられるのかが伝わってきます。話を伺っていて、こちらの方が先生に対する安心感で満ちてくる気分になり、見送り後に会うことができると心地よい余韻が残りました。



今年も、さまざまな方々との素敵な出会いがあることと楽しみにしています。先生方にとっても、わくわくするような、また、心地よい出会いの場所としての教育センターとなるように、職員一同心がけていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。（榎本）



## 総合研修・ニューステージ研修II



教育センターでは、総合研修・課題別研修・教科領域別研修等、数多くの研修会を実施しています。その中でも、今年度は、10年経験者研修と教科研究協力員の意見に基づいた教科研修会が新しくスタートしました。また、総合研修のニューステージ研修IIも内容を一新し、受講される方が個に応じて選択できるコース別研修を取り入れました。

### ～ ニューステージ研修IIの内容紹介 ～

1年目の初任者研修と10年目の経験者研修受講者を除いた、2年目～9年目までの若い先生方を対象とし、指導力の向上を目的とした総合研修がニューステージ研修IIです。

年間をとおして全6回ある研修のうち、2～5回目はそれぞれ選択したコースに分かれて研修しました。はじめは、情報・科学・英語・教科教育の4つのコースが設定されておりましたが、実際には科学コースの受講希望がないため、3つのコースの実施となりました。

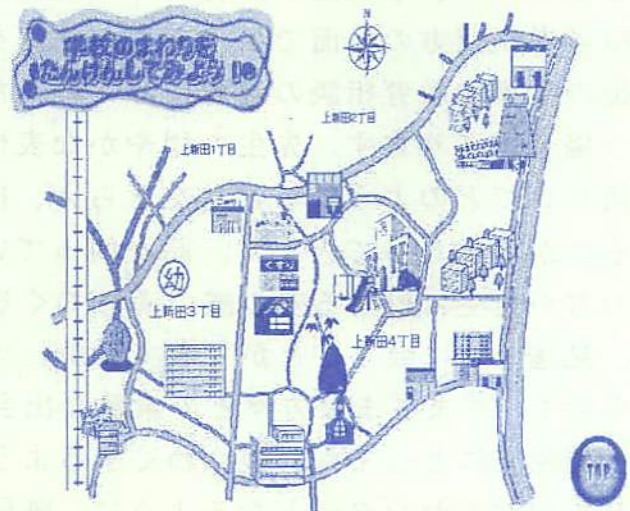
	研 修 内 容
情報コース	・児童生徒の情報活用能力の育成を目指し、コンピュータを利用して校区を探検し収集した情報をもとに校区探検のホームページを作成（実習・演習）
英語コース	・基本的な日常会話の場面設定を行い、受講者相互によるコミュニケーション活動（実習・演習） ・少人数分割における中学校英語の授業見学・研究協議
教科教育コース	・個に応じたきめ細かな指導をどう実現するか（講演） ・授業内容の工夫と改善～してみたいいろいろな取組（講義） ・小学校の授業見学・研究協議（算数・国語）

### 来年度の研修参加を！

今年度の受講者は15名で、すべて小学校の先生方でした。来年度は、中学校の先生方のご参加をお待ちしております。

今年度受講された方は、近いうちに別のコースの受講参加を。

また、今年度は実施できなかった科学コースは、理科の教材・実験・観察等、授業にすぐに役立つものですので、是非とも多くの方の受講をお願いいたします。



研修会で作成した教材（情報コース）



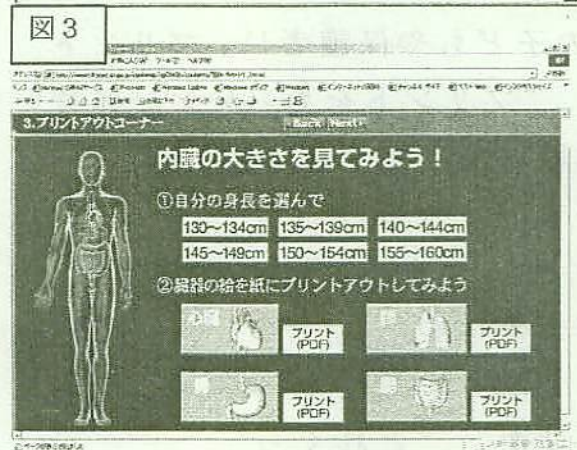
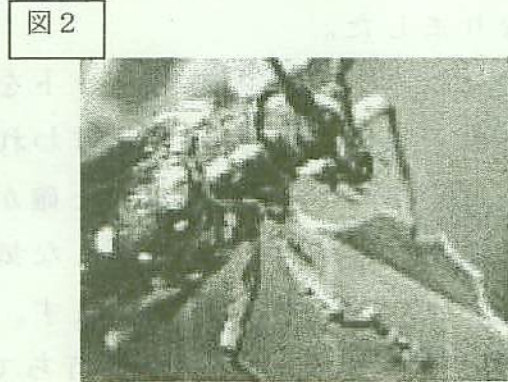
# コンピュータ活用入門⑮

## —教育用デジタルコンテンツの活用—

ここ数年、インターネット上に授業に使えるさまざまなデジタルコンテンツが公開されるようになってきています。その多くは、「分かる授業」の実現と「情報活用能力」の育成を目指し、指導案、指導用ワークシート、実践ビデオクリップ、コンテンツ情報等、授業にすぐ役立つ情報が納められています。

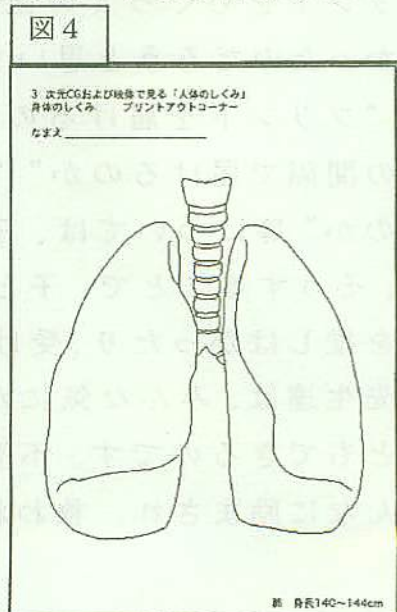
一例として、岡山県情報教育センターの「教育画像素材集 おかやま」及び「デジタルコンテンツ活用事例」をご紹介します。

図1は、吉野ヶ里遺跡周辺の環濠集落分布図です。また、図2は、イチジクの木の皮を食べにやってきたキボシカミキリの成虫の映像で動画クリップです。



続いて、図3の「理科ねっとわーく 科学技術・理科教育のためのデジタル教材提供システム」です。自分の身長を選ぶと、その身長に応じた実寸大の臓器 (図4) をプリントアウトすることができます。

いかがでしょうか。例えば、授業で行う実験を、デジタル教材で見せてから行う方法や行った実験をまとめる際にデジタル教材で見せる方法もあるでしょう。また、やりにくい実験を提示する方法もあると思います。



授業に有効なデジタルコンテンツを活用することで、授業をさらに豊かなものとし、児童生徒がより興味関心を持つとともに理解が深まるのではないのでしょうか。

加えて、スクールネットでは、先生方の実践を共有する仕組みとして、教材登録・検索が可能になっています。豊中発の教材も公開・共有していきたいと考えています。

岡山県情報教育センター教育画像素材集  
<http://www2.jyose.pref.okayama.jp/cec/>  
 理科ねっとわーくデジタル教材  
<http://www.rikanet.jst.go.jp/app/user/login/toppage>



## たかがプリント、されどプリント

不登校の状態にある子どもの保護者と話していると、学校からのプリントが話題になることがあります。

A君が、まったく学校に行かなくなってから1年以上になります。昨年は、A君のお母さんが、先生とのやりとりで、「プリントはいらない」と伝え、担任も配慮して届けることを控えました。年度が変わって昨年のことを知らない新しい担任からは、また、プリントが届くようになりました。

お母さんは「学校からのプリントを見ると、不登校であることを思い知らされるようでつらい」と言われます。カウンセラーが、「では、プリントはいらないのですね」と確かめると、「プリントが届けられないと、放っておかれているような気がします。先生が気にかけてくれるのはうれしい」とも言われます。プリントを持ってきて欲しい気持ちと持ってきて欲しくない気持ちで心がゆれるのですが、やがて、「持ってきて欲しい気持ちが少し強いです」と話されたのです。

担任の先生は、案外気楽に不登校の生徒に、プリントを届けたり届けなかったりします。しかし、不登校の子どもや保護者は、プリントを見たときにいろいろな思いが交錯し、“プリントをもらいたい気持ち”と“もらいたくない気持ち”が同時に湧いてきて、とても複雑な気持ちになるのだと思います。A君のお母さんも、プリントがいかいらないということよりもプリントをめぐっての微妙な気持ちを先生にわかって欲しかったのだらうと思います。



“プリントを届けるのか、届けないのか” “どれくらいの間隔で届けるのか” “届けるプリントは全部にするのか一部でいいのか” 等については、子どもや保護者に、そっと相談してみてください。そうすることで、子どもや保護者の複雑な胸の内に秘めている思いを推しはかたり、受け止めることができるのだと思います。また、“先生達は、みんな気にかけていますよ” というメッセージを伝えることもできるのです。不登校の子どもや保護者は、このメッセージにどんなに励まされ、救われることでしょうか。(大倉)